# 1000人が参加 撲滅誓う

## 薬物乱用防止セミナー

体育会所属学生を中心に約1000人の学生が参加

薬物についての正しい知識を学ぶ「薬物乱用防止セミナー」が8月1日、生田キャンパスで開かれた。神田キャンパスでもオンライン配信され、体育会に所属する学生を中心に対面で700人、オンラインで300人、合計約1000人が参加。学生たちは違法薬物の危険性を再確認し、「ダメ。ゼッタイ。」のスローガンのもと「しない、させない」ことを誓った。

今年7月、本学の学生が麻薬取締法違反で逮捕される事案があった。佐々木重人学長が「非常に残念なことが起こってしまった。二度と起きないようにするためにも、薬物に対する知識をしっかりと身につけてほしい」と語りかけたほか、石崎徹体育部長からも強いメッセージがあった。

セミナーは、ライオンズクラブ国際協会330－A地区GST薬物乱用防止委員会委員長の根津万寿夫さんが講師を務めた。根津さんは、薬と違法薬物について歴史や化学の視点から解説した後、大麻などの強い依存性や脳に与える悪影響を伝えた。また、相次ぐ大学生による事件を提示し、「皆さんが思い描く『なりたい自分』になるためには、薬物に関わっている暇はない」と強く訴えた。

聴講した学生は「違法薬物の怖さを知ることができた」「絶対にやってはいけないものだと再確認できた」と感想を述べ、撲滅に向けた決意を新たにした。

最後に佐竹弘靖学生部長が、「学生生活や学業、部活動、ハラスメントに関するものなど、悩みや不安がある時は、学生相談室やキャンパス・ハラスメント対策室に相談してほしい」と本学の相談体制などについて説明した。

# 日米関税交渉の最前線 外交官に聞く

## 経済・塙ゼミ

「アメリカ経済と都市政策」を学ぶ経済学部の塙武郎ゼミでは、ゲストスピーカーを招いての講演会を実施している。

6月27日には外務省と連携した「外交講座」を開催し、外務省経済局主査の渋谷浩之さんが講演。「経済外交と貿易交渉」をテーマに、外交官の仕事や日米交渉の様子、日本の外交政策など、縦横に語った。

渋谷さんは今年4月の第1回日米関税交渉に外交官として随行し、通訳を務めた。「米国は使えるカードをすべて使ってくる。日本としても何が使えるかを常に考えながら交渉に臨んでいる」と最前線の緊張感を伝えた。

外交官の役割や関税交渉などについて学生に伝えた

このほか、日本の立ち位置をグローバルな視点から解説。「分野横断的に日本の価値を高めることができる」と話したほか、学生に向けてのアドバイスもあった。

講座にはゼミ生ら約20人が出席。渡邉裕人さん（4年次）は「外交という、普段直接触れることがない分野について、価値ある話を聞くことができた」と話した。

# 政治やメディアテーマに 鳩山元首相が専大生と語る

## 東京新聞連携協定イベント第2弾

鳩山元首相（右）とゼミ生が政治や報道について意見を交わした

文学部ジャーナリズム学科の山田健太ゼミに所属する学生14人が、鳩山由紀夫元首相と現在の政治課題やSNSとの付き合い方などについて意見を交わした。7月23日、本学と東京新聞の連携協定記念イベント第2弾として、東京・文京区の鳩山会館で「鳩山元首相と専大生が語る 若者・政治・メディア」として開催された。

東京新聞（中日新聞東京本社）顧問の菅沼堅吾さんが「若い世代が積極的に政治に関わることが大切だ」と開催趣旨を説明。続いて本学の宮岡孝之理事が、鳩山元首相の曽祖父にあたる鳩山和夫元衆議院議長が本学の前身・専修学校の設置構想に加わっていたことや、鳩山元首相が1981年から3年間、経営学部助教授として在籍していたことなどを解説した。

鳩山元首相と学生は、メディアとの付き合い方▽選挙に関して▽いまの生活・社会・政治に思うこと――の三つのテーマについて対話した。

平吹雪羽さん（3年次）は「テレビを持っていないが、娯楽、ニュースなどはSNSで十分に足りている。好きな時間に情報を得られるので便利だが、フィルターがかかっているものも多く、注意しなければならない」と話した。加藤奏希さん（3年次）は7月の参議院議員選挙を振り返り、「分かりやすいキャッチコピーが多くの人に刺さったのではないか」と推測した。

学生の意見を受け鳩山元首相は、「日本はもっと外に向かって開かなければならない。若い人はどんどん外に出ていってほしい」と話し、「和を以て貴しと為す、という考えが今の時代にこそ重要となる」と語った。

## 司書インターンシップ

# 高校生が業務体験

カウンター業務を行う高校生

高校生が大学図書館の仕事を体験する司書インターンシップが7月に生田キャンパスの図書館本館で行われた。今年度は高大連携協定校の座間総合高校、城郷高校、教育交流提携校の浦和学院高校、向上高校の生徒16人が参加した。

生徒たちは、職員から本学図書館の概要や大学図書館の役割などを聞いた後、受入、整理、利用サービスといった業務を体験した。仮製本体験では、オリジナルのメモ帳作りに取り組んだ。

生徒からは「こういった機会がなければ体験できないことばかりだった。参加して良かった」などの感想があった。

## 訃報

松田修氏（まつだ・おさむ）元経済学部教授

2024年6月26日、96歳で死去。1985年から99年まで在職。専門は日本経済論。

## 専修人の新しい本

### 刑法講話

日高義博 著

本書は、刑法に関する講演録・講義録を収録したものである。

著者にとって、対面で受講者の表情を見ながら自分の考えを解き明かすことは、知の冒険であり、知の継承の場である。コロナ禍では対面での講演等は制約されたが、本来、学問の場にあっては、対面での問い掛けなくしては、物事の実相を伝え、「魂の覚醒」に至ることは難しい、という著者の思いがある。

本書には、著者の講演・講義の雰囲気を醸し出す論稿7篇（「刑法と人情」「人権と罪刑法定主義」「刑法講話」「刑法の理論的対立軸とわが刑法学」「最終講義・共犯の基礎理論」「学問と人生」「道徳・倫理の実相と教育」）が収められている。著者の喜寿の歳に刊行された本書は、刑法学の知の冒険へと誘うものである。

（成文堂・税込み3300円）

著者（ひだか・よしひろ）学校法人専修大学総長。刑法。

## 緑地帯

# 自転車 交通ルール順守を

執筆者は、趣味でよくロードバイクに乗り長距離を走ります。そのとき、逆走、一時停止違反、信号無視などの交通違反をする自転車をまだまだ多く見かけ、自転車の交通ルールに対する意識はまだ低いようです。交通違反は交通事故につながる可能性は高く、実際、警察庁によれば、自転車関連交通事故が全交通事故に占める構成比は、2016年の18.2%から、23年には23.5%と増加傾向にあります。

自転車の交通違反に対して、25年８月現在では、自転車指導警告カードによる注意、自転車運転者講習受講命令書、重大・悪質な違反に対する赤切符などの対応が取られています。赤切符が切られると、刑事裁判で裁かれ、刑罰を受けることになります。このような対策にもかかわらず、自転車の交通事故の割合は増えています。刑事処分を前提とした赤切符は、よほど重大・悪質な違反でないと切られることがなく、相対的に軽微な違反に対する取り締まりが不十分でした。そのため、26年４月１日より反則金を納付することにより、刑事処分を免れる青切符が、自転車の交通違反に対して導入されることとなります。青切符の場合も、反則金の納付をしないと、刑事処分の対象となります。

自転車の違反行為の例としては、携帯電話をみながら運転する「ながら運転」、信号無視、「遮断踏切立入り」、右側走行などの「通行区分違反」、「一時不停止」、「無灯火」など、未だによく見受けられるような行為になります。青切符の導入により、これまでは注意だけで終わったような行為も、取り締まられるようになります。

反則金や刑事処分の有無にかかわらず、交通ルールを守り、安全運転を心がけたいと思います。

（学生部委員・稲葉大）